

# 病院と地域をむすぶ



# パイプライン



2016年6月号

発行：総合病院 南生協病院

5  
月  
実  
績

一日外来患者数：888.9人 一日入院患者数：278.9人 紹介患者数：510人  
ベッド稼働率：90.0% 救急車：250台 手術数：131件

## 医療の質について

医療の質というテーマを与えられましたが、ここでは問題を純粋に医療技術的な面に限ります。第一には、個人的な努力、それも振り返りをしながら、という学習スタイルが必要です（反省的実践家）。しかし、個人の質の向上が、全体の質の向上を保証するわけではないので、次の目標は、職場の教育的風土の醸成、ということになります。ここでも、上から下への知識の伝達、という方法は効果が期待できないので、事前の視点に立った、自由な意見交換が可能なカンファレンススタイルを工夫する必要があるでしょう（反省的実践集団）。上からの介入は効果がありませんが、自発性を支える、制度的な仕組みの整備は必要となります。このサイクルから、専門職種内、職種間の相互評価・相互批評、専門職としての矜持、が形成されることが、持続的な質の改善の前提条件となります（peer review）

救急外来担当医師 野田 耕世

## 生活の場と病院をつなぐ外来看護

病院の外来部門は、暮らしと医療のバランスをとるために患者様が集まる最も身近な場所になります。その為、看護師は、病気だけではなく生活背景を見据えながら関わるができるよう日々心がけています。

やむを得ず入院になられた場合、患者様の入院時に必要と思われる情報は、「外来サマリー」（外来での経過を看護師が要約した文書）を活用して申し送りをしています。例えば、内服を指示通りに飲めない人と思っけていても、お話を伺うと実は、ご本人なりの考えがあつての事もあります。奥様が認知症なので、退院前に在宅調整が必要など、外来で知り得た情報を病棟へ発信することで患者様と病棟看護師との信頼関係づくりや、早い退院調整に繋がっていくことができます。

退院時には、必要に応じて外来への申し送りがあります。病棟との連携で患者様の継続した療養生活を支える為の看護を目指しています。

外来看護課長 山野八恵子

## システム管理・整備で支えます

情報システム課の役割は、医師や看護師と言った医療の専門家が患者様や地域の方へ高い品質の医療を提供できるよう、電子機器や取り扱うシステムを管理・整備することで支えることです。

また、物理的・電子的なセキュリティ面の管理も行っています。世間では個人情報漏えいや電子攻撃などリスクが増えてきています。南医療生協の事業所にある電子機器と扱い方を全て監視し、内部や外部からの攻撃に目を光らせています。

医療・介護などのシステムを運用するためのサーバーの管理も、情報システム課の大切な業務の一つです。医療や介護の現場での業務が止まってしまうよう、システムサーバーの管理、メンテナンス、バージョンアップを行っています。

病院見学の際には、ぜひ情報システム課にもお立ち寄りください。

情報システム課 主任米重裕樹